

一年学年だより

No. 11【2月号】

令和7年1月30日発行

私の小さなチャレンジ ～ショートショートに挑戦～

昨年6月にインターアクト部が参加した研修会で、松山市役所の文化・ことば課が取り組まれているショートショート作成の活動に参加しました。

学生の頃から作文は苦手で、小説なんて書いたことはありません。しかし、講師の先生のご指導の下、恐る恐る挑戦してみたところ、ショートショートっぽいものができましたので、恥ずかしながらここでお披露目したいと思います。おそらく、自分が作った話を人に見せるのは、私の人生において最初で最後です。

『勢いよく柔らかな気』

仲間と一つになって勢いよく活動している様子が好きだ。個人では成し遂げるのが難しいことでも、仲間とともに挑戦すれば可能性が広がる。

集団での活動は、単独での努力よりも自然と活気を生む。その結果、一人では実現不可能と思える目標でも達成できることがある。目標をクリアした時の喜びは、個人の喜びが仲間との共有となり、何倍にも膨れ上がる。

この喜びが新たな勢いを生み、次の挑戦への力となる。個人や集団が自律の一步を踏み出し、新しいフィールドで新たな歓喜を巻き起こす様子は、まるで前へ前へと進むエネルギーが「気」となって吹いているかのようだ。しかし、時には吹き荒ぶ気が視界を遮り、大事なものを見えなくしてしまうこともある。

夏の木漏れ日を通る涼やかな気は熱射を和らげ、冬の陽だまりに生まれる温かい気は凍える者を優しく包むように、私も勢いよく喜びを届ける柔らかな気でありたい。

大学生のときに受講していた英文学の授業で、イギリスの小説家であるトーマス・ハーディが書いた「テス」という小説を読みました。言葉だけで広い時空間を描き出せることに驚き、言葉が生み出す世界の壮大さに感動しました。

人生まだまだこれからのみなさん、本を読んだり、文章を書いたりすることを避けずに、ぜひ多種多様な本に出会い、自分の言葉を持って、世界を広げてほしいと思います。

(109HR担任)

可能性は無限大

松山中央高校に赴任して、早1年が経とうとしていることに驚きを感じています。これまで皆さんと同じように先生“1年生”として、様々なことを学ばせていただきました。その中で気付かされたのは、皆さんの可能性が無限に広がっているということです。それがとても嬉しく、同時に羨ましくもありました。高校時代の私は、自分の可能性に背を向けてしまっていたからです。

今はこうして教壇に立っていますが、高校生の頃は決して真面目といえる生徒ではありませんでした。テストでは当たり前のように赤点を取り、課題提出から逃げ、常に先生方から叱られる毎日でした。将来の夢や目標も3年生になるまで何もなく、「自分はどのようにして学校に行かないといけないのだろう」と思うようになった時期もあります。気が付いたときには進路選択の幅もかなり狭く、とても後悔している自分がいました。自分自身のもつ可能性や、それを広げるチャンスから、私はずっと逃げてしまっていたのだと今になって思います。

高校生活を送る皆さんの可能性は無限大です。様々なことを学び、大きく成長できる3年間です。成績がどんどん伸びている生徒や国語を好きになってくれた生徒、未経験で入部したはずなのに、猛スピードで成長していく部員たちなどの様子を見て、そう確信しています。新しい発見に満ちているかけがえのない時間を大切にして、「どうせできないから」「苦手だから」と諦めるのではなく、ぜひ何事にも前向きに挑戦し続けてください。

(109HR副担任)